

「おしゃぶり」

おしゃぶりを使うと

よく泣いてなかなか泣き止まない赤ちゃんの場合、おしゃぶりは簡単に泣き止ませることが出来、子育てのストレスを減らすという効用があります。でも使い始めると「はいおしゃぶり」というように、習慣性になってしまって、どうして泣いているのかをあまり考えなくなるとか、おとなしくしているからと関わりが減ったり、言葉かけが減ったりしてしまいがちです。また長期間使用すると歯の噛み合わせが悪くなります。

上手なおしゃぶりの上手な使い方

- 乳児の指しゃぶりは自然な行為です。指しゃぶりの代りにおしゃぶりを使わないようにしましょう。
- いらいらするくらい泣くのであれば、おしゃぶりを使うのもしかたないでしょう。
- おしゃぶりを使用している間も、声かけや一緒に遊ぶなどの子どもとのふれあいを大切にしましょう。
- 発語や言葉を覚える1歳過ぎになったら、おしゃぶりのホルダーを外して、常時使わないようにしましょう。
- 遅くとも2歳半までに使用を中止しましょう。この時期を過ぎて使っていると歯の噛み合わせの異常が改善されません。

宣伝に注意

おしゃぶりは「鼻呼吸や舌や顎の発達を促進する」と宣伝されていますが、現時点では学問的には検証されていません。宣伝におどらされないようにしましょう。

